

# 「防災推進国民大会2019」の開催報告

大規模災害に備える ーまなぶ、つながる、つよくなるー「防災を、もっと日常に」

内閣府（防災担当）普及啓発・連携担当

## 1 「防災推進国民大会 (通称「ぼうさいこくたい）」とは

平成 27 年 3 月に第 3 回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組 2015 - 2030」を受け、平成 27 年 9 月、幅広い層の防災意識の向上を図ることを目的として、中央防災会議会長である安倍内閣総理大臣の呼びかけにより、「防災推進国民会議」が発足しました。

平成 28 年度から毎年、内閣府では、「防災推進国民会議」及び主に業界団体からなる「防災推進協議会」とともに、産学官、NPO・市民団体や国民の皆様が日頃から行っている防災活動を、全国的な規模で発表し、交流する日本最大級の防災イベントである「防災推進国民大会」を開催しております。

## 2 はじめに

今回で 4 回目となる「防災推進国民大会 2019」は、本年 10 月 19 日（土）・20 日（日）に、名古屋市ささしまライブエリア（名古屋コンベンションホール、パークエリア、キャナルゲートエリア、中京テレビ）において、防災推進国民大会 2019 実行委員会（内閣府、防災推進国民会議、防災推進協議会）が主催し、全国から約 1 万 5 千人の方々にご参加いただきました。また、同時に愛知県・名古屋市主催で「あいち・なごや防災フェスタ」も開催されました。

以下、本大会について報告します。

## 3 開催概要

今回の「ぼうさいこくたい」は、「大規模災害に備える ーまなぶ、つながる、つよくなる

ー『防災を、もっと日常に』をテーマとし、ご家族連れから専門家まで幅広い方々が防災について楽しく学ぶことができるイベントとすることを目指しました。それぞれの出展団体は、「自助・共助」、「多様な主体の連携」及び「地域における防災力の向上」を促進することや、災害に関する知識や経験等の共有を図ることなど、訴えたいメッセージを来場者にわかりやすく伝えるセッションや展示を展開しました。

## 4 今年の出展団体の特徴

今年は、昨年より 2 倍近い、211 の団体が出展しました。そのうち、約 3 割が企業、次いで独立・公益・一般法人などが約 2 割、NPO/NGO が約 1 割、省庁が約 1 割、中・高・大学校では、約 1 割弱が出展し、地元愛知県からは約 2 割強、東京が約 4 割の出展でした。今年の出展内容は特に若年層への防災意識の普及を図るため、一般向けの内容を増やし、学生や子供向けの出展を充実させたのが特徴です。

## 5 オープニング・セッション (開会挨拶、ハイレベル対談)

19 日（土）13 時からはオープニング・セッションが行われました。台風第 19 号をはじめとする災害対応のため、武田良太防災担当大臣はビデオメッセージにて開会宣言を行いました。武田大臣は、今回の台風第 19 号では、災害救助法が 13 都県 316 市区町村に適用されるなど、被害が極めて広範囲に及んでおり、政府一丸となって全力で対応に当たっていること、巨大災害に対しては、公助の取組とと

ともに、「自助」「共助」の取組が重要であり、そのためには、民間企業や学会など、様々な主体が連携する必要があることを述べられた後、今年の「ぼうさいこくたい」は、南海トラフ地震の発生が予想される地域において、大規模災害に備えるための産学官を超えた共助の枠組があるということ、そして今年は災害対策基本法策定のきっかけとなった伊勢湾台風から60年であり、我が国の防災について国民にメッセージを発信するための重要な節目となることから、名古屋市において開催することとなった経緯を述べられました。

その後、大村知事及び河村市長から開催地挨拶、大塚防災推進国民会議議長（日本赤十字社社長）からは主催挨拶が述べられ、本大会のテーマである「大規模災害に備える－まなぶ、つながる、つよくなる－『防災を、もっと日常に』」を通じて幅広い世代が防災、減災への取組の必要性について理解を深めて頂きたいと述べられ、我が国全体の防災意識向上が図られることへの期待が表明されました。



武田防災担当大臣による開会ビデオメッセージ



大塚議長による主催挨拶



大村知事による開催地挨拶



河村市長による開催地挨拶

「ハイレベル対談」では、奥野名古屋都市センター長（国土審議会会長）と福和名古屋大学減災連携研究センター長が『南海トラフ地震、首都直下地震に備える国土と地域の強靱化』を対談テーマに産官学が連携した防災力向上等について意見交換を行いました。



ハイレベル対談の様子

## 6 テーマ別セッション

名古屋コンベンションホールでは、2日間で28のセッションが催されました。内閣府や防災に取り組む様々な団体が行うテーマ別セッションでは、南海トラフ地震対策への具体的な取組や今後必要となる「自助・共助」の取組について議論が行われました。

内閣府及び国土交通省中部地方整備局が主催した「ハイレベルセッション・南海トラフ巨大地震へのソナエ」は、ハード・ソフト一体となった防災・減災・国土強靱化対策の必要性を再認識し、産学官民の連携により、日本の経済と産業、地域と住民を守ることを目指すことを目的として実施されました。災害対応中の平副大臣からはビデオメッセージにて、新しいテクノロジーを防災・減災に活用し、効果的な防災政策を実行できるよう、防災とIT・科学技術、サイバーセキュリティ等を担当として取り組んでいくと述べました。

日本消防協会と日本防火・防災協会主催によるセッションは、「女性パワーが活きる地域防災」をテーマとし、女性の感性、知識、発想等が地域防災力の充実強化に不可欠であることを、防災に関わる女性パネリストから発信し、地域防災の一層の進展を目指したものとなりました。

内閣府が主催した「地区防災計画のこれからを考える」では、地区防災計画のこれからを考え、次のステージに向けてのアクションを議論するセッションが行われました。本セッションを通じて共助の重要性や、地区防災計画の取組の推進が再確認されました。

本大会では台風第19号等の被災地支援を

行うことを目的に、ボランティア連携強化のための緊急連絡会を内閣府と全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）が連携して実施しました。本連絡会では防災・減災・災害対応情報の共有やボランティア等の被災地支援への参画の呼びかけを目的に2日間で3回実施しました。また20日にJVOADが行ったセッションでは、行政、災害ボランティアセンター（社会福祉協議会）、民間（NPO、企業など）の3者が、どのように連携して復旧・復興に取り組んでいるのか、被災地の現状を伺いながらモレのない支援のカタチを考えました。このような活動と共に、日本赤十字社、中央共同募金会等にて被災地への義援金の呼びかけをブース展示にて行いました。

その他、名古屋で本大会が開催されたこともあり、南海トラフ地震や大規模水害など名古屋において予想されている災害に関するセッションが多く行われました。



内閣府「地区防災計画のこれからを考える」



日本消防協会、日本防火・防災協会  
「女性パワーが活きる地域防災」

## 7 展示について

名古屋コンベンションホール及び中京テレビでは96のプレゼンブースやポスター展示が並び、出展団体が日頃から行っている防災・減災活動が発表されました。展示スペースには人があふれ、出展者が来場者に詳しく説明を行っている様子を見ることができました。

また、屋外のパークエリアでは人命救助を学ぶコーナーや、家庭での備蓄を親子で考える企画など16のワークショップが実施されました。キャナルゲートエリアには11の屋外展示が出展され、地震が体験できる起震車や多くの消防車両の展示、消火のための放水体験等が行われました。



株式会社リブライトによる  
「出張防災工作教室」ブース



名古屋市「家庭での備蓄を親子で考える」ワークショップ

## 8 クロージング・セッション

20日（日）に行われたクロージング・セッションでは、まず初めに主催者挨拶として秋本防災推進国民会議副議長から、2日間の大会を通じて来場者を含む出展者の方が「自助・共助」、「多様な主体の連携」が防災にとって重要であることを共有できる会となったことに感謝が述べられました。

次に池上市民防災研究所理事より、出展団体の2020年に向けたコミットメントの成果発表がなされ、代表7団体から防災に関する様々な意欲的なコミットメントが発表されました。

その後、福和名古屋大学減災連携研究センター長より、今年のテーマである「連携」が地域を超えた連携、年配の方から子供まで世代を超えた連携などによる取組の紹介を通じてみる事ができたという、今年の防災推進国民大会を振り返った総評がなされました。

宇田川防災推進協議会運営委員会委員長から次回大会の開催地が広島市に決定したことを発表し、勝田広島市危機管理室室長からは防災推進国民大会 2020 年の抱負と広島市の魅力について発表がなされました。

大会の締めくくりとして今井内閣府大臣政務官からは、災害対応中のためビデオメッセージにより、大会参加者への感謝と、来年の防災推進国民大会 2020 への期待が表明されました。



秋本防災推進国民会議副議長による主催者挨拶



出展団体からの来年に向けたコミットメント発表の様子



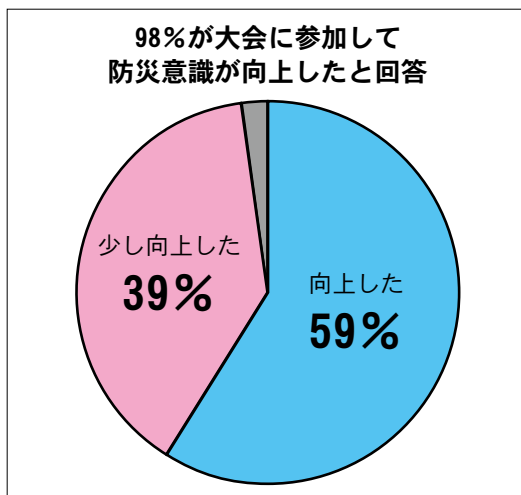
福和先生による大会を振り返った総評



今井政務官による閉会ビデオメッセージ

災の取組が端々に紹介されたのは今回の大会の特徴でした。

大会を通じて、「公助」の取組とともに、国民一人一人が自ら取り組む「自助」、そして、地域、企業、学校、ボランティアなど互いに助け合う「共助」を組み合わせ、地域全体で防災意識を高め、あらゆる自然災害に備える「防災意識社会」を構築することの重要性が共有されたことは大きな成果と考えております。



## 9 効果について

約 1 万 5 千人の方が大会期間中に来場されました。また、テレビや新聞報道でも多く取りあげられました。

来場者に対するアンケートでは、98%の人が来場により防災意識が向上したと答えており、大きな効果が見られました。多くの一般の方々に対して、防災について楽しく学べる場を提供できたといえます。また、出展団体からも、本大会を通じて日頃目指している防災テーマを来場者に効果的に発信することができたというご意見が多数寄せられました。

開催地である名古屋は、南海トラフ巨大地震の影響が予想される地域であり、大災害に備え、愛知県、名古屋市、名古屋大学が産業界と連携して実施する全国にも参考となる防

## 10 次回大会について

第 5 回目の「防災推進国民大会 2020 (仮称)」は、令和 2 年 10 月 3 日 (土)、4 日 (日) に広島市にて開催する予定としています。今年の成果を踏まえ、「自助・共助」及び「多様な主体の連携」をより一層深められるような大会にすべく鋭意準備を進めてまいります。

### 【参考】

「ぼうさいこくたい」の各セッションの動画やディスカッション等で使用した資料の一部については、「ぼうさいこくたい」のHPよりダウンロード可能です。(URL: <http://bosai-kokutai.jp/>)

